



6月議会の一般質問で、福木、はなおか2人の議員で、7件の要求項目を市長に質す！

福木京子議員の一般質問

(1) コロナ対策でPCR検査の拡充を

感染の拡大を防ぐには、ワクチン接種と並行してPCR検査の拡充が決定的に重要である。優先して医療機関、介護施設関係、学校関係などに計画的な検査をし、一般市民も受けられるようにすべきだ。

5月20日に日本共産党の志位和夫委員長が、河野ワクチン担当相に「新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急要請」を手渡している。

コロナ封じ込めを戦略目標にすえ、ワクチン接種の安全・迅速な接種、大規模検査、十分な補償と生活支援の3本柱の対策の強化を要請している。

赤磐市は4月PCR検査機器1台を導入している。64歳以下の人はワクチン接種はこれからであり、PCR検査の必要性は大いに増している。PCR検査の体制を作り、他の自治体に学び予算をつけて大規模に行うべきだ。しかし、市長は、ワクチン接種が最優先というばかりで、せっかく購入しているPCR検査機器の活用方法は、体制も考えていないし、後回しになっている。これでは安心できない。さらに要望していかなければならない。

(2) 幼稚園、小中学校の給食費の無料化を

備前市は第2子に半額補助、3子以上は無料にしている。赤磐市では、3月の市長選で対立候補が小学校の給食費の無料化を公約に上げていた。

コロナ禍の生活は、子育て真っ最中の若い夫婦の上のしかかっている。子育て支援策として義務教育は無償であり、食育は教育の一環なのでぜひ無料化の施策を前進させるべきだ。(裏に続く)

しかし、市長、教育長の答弁は、低所得の家庭に対しては就学援助制度があるのでそれを活用してほしいの一点張りであった。これを実現させるためには署名など世論を広げていかなければならない。

(3) 山陽団地の活性化について

4月23日の新聞報道での新首長インタビューでは、「若者流出などの空洞化が深刻な大規模住宅団地・山陽団地の活性化は急務だ。老朽化した県営住宅の跡地に新たな住宅を整備し、若い世代の移住定住の受け皿を作る。今年中にプロポーザル方式で開発業者を公募したい。市民から要望の強いショッピング跡地の有効活用についても、土地を所有する企業と粘り強く交渉していく。」と述べている。

これからは目に見える形で取り組まない限り住民は離れていくでしょう。基本計画に沿って着実に前進していただきたい。思い切った施策を提案し、若い人に選んで住んでもらえるようにしていただきたい。しかし、市長は、しんぶん報道で述べている以上の答弁は聞かれませんでした。所有者の方の考えを待つだけでなく、市が積極的な提案を示さない限り前進しないでしょう。

はなおかみほ議員の一般質問

- * 子どもの医療費を18歳まで無料に
- * 国保税の平等割を廃止し、子どもの均等割は18歳まで免除に
- * 熊山、佐伯北診療所を有床に
- * 桜が丘ショッピングセンター跡地に児童館の建設を

議会報告は終了後、改めて行います。2人3脚で力を合わせ、みなさんの声を市政に届け、要求実現に頑張っていきます。

